

論壇

問われる「賢い支出」

今年はそのような年になるのだろうか。毎年、正月を迎えるごとにそう考える。昨年1年コロナ禍に振り回されただけに、そうした思いは、今年は特に強い。

オミクロン株の感染の広がりや報じられている。今年も新型コロナウイルスの感染を完全に終結させることは難しいようだ。ただ、ワクチンの3回目の接種、治療薬の活用、そして感染予防の徹底などで、コロナとの共存を図りながら生活や社会を立て直していく時期に来ていることは確かだ。

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

経済という視点で見れば、コロナ禍で大きく落ち込んだ経済が急速に回復する時期にきている。これをリバウンド(反転)という。経済とは、大きく落ち込んだ後には、勢いのある回復をするものである。米国などでは昨年の後半からこのリバウンドが顕著となっている。需要の急速な回復に

も言える。年末の商業施設や空港の混雑をみると、リバウンドの景気拡大が始まっているようだ。オミクロン株の感染の広がりも先行きが分からないので、この先の景気の予想は難しい。感染が完全になくなることはなさそうなので、人の移動や人の集まる業種への影響は続くだろう。ただ、そうした

持続的な経済回復へ施策を

よって物価が上昇をはじめ、インフレの懸念さえ出ている状況だ。日本はこうした状況から半年遅れだ。景気回復が遅れているという意味では残念ではあるが、これからの回復が期待できるのである。楽しみが先に残っていると

10万円の支給、中小企業対象に最大で250万円の給付金など、その規模の大きさにも驚くと同時に、こうした政策が何度もできるとは思えない。昨年、国民全員に一律10万円を配ったが、その多くが貯蓄に回っただけという残念な結果が繰り返されなければよい。

マイナス要因を考慮に入れても、今年の経済は昨年比べて大きく回復すると、多くの機関が予測している。昨年末に成立した政府の補正予算も、そうした景気回復を後押しする狙いを持ったものだ。ただ、18歳未満の子供1人当たり

子育て支援でも、中小企業への支援でも、本当に困ったところにお金を投じることは必要だろうが、限られた財政で成果を上げるためにはバラマキでは困る。財政資金のワイズスペンディング(賢い支出)が問われるところだ。根本から産業を強く

ように、日本経済を回復させるためには、リバウンドで終わらず、リカバリー、つまり持続的な経済回復につなげていくことが必要となる。国民のお金を配り続けるだけでは経済の本格的な回復にはならないことは明らかだ。デジタルやグリーン分野などで企業が積極的に投資を行い、労働者のスキルアップにもっとお金が使われるような流れを政策でつくっていくなくてはいけない。

\*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。

さて、以前にもこの欄で書いたように、日本経済を回復させるためには、日本経済を回復させるためには、リカバリー、つまり持続的な経済回復につなげていくことが必要となる。国民のお金を配り続けるだけでは経済の本格的な回復にはならないことは明らかだ。デジタルやグリーン分野などで企業が積極的に投資を行い、労働者のスキルアップにもっとお金が使われるような流れを政策でつくっていくなくてはいけない。

産業を根本から強くしていかなくては、経済の持続的な回復は望めない。そうしたことはずっと言われ続けてきたことだ。岸田文雄首相もこれらの政策については、しばしば言及している。重要なことは、そうした政策に一刻も早く着手することだ。